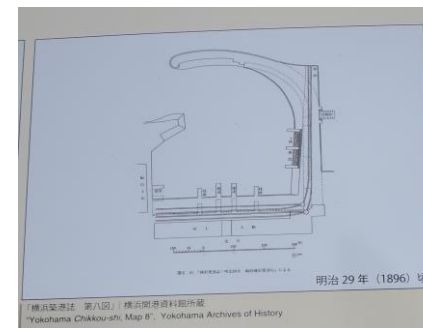
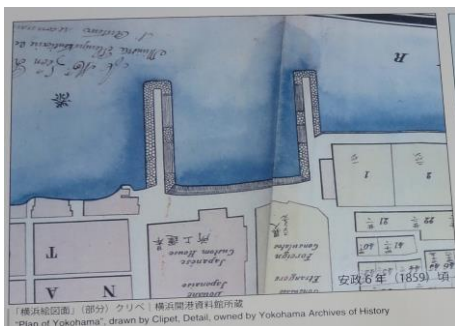


横浜港の風景 (一部)

2022年7月16日 kdsウォーキング説明資料 木原

横浜開港場整備期	文明開化期	港湾整備期	...
安政6年(1859年)～慶応3年(1867年)	明治元年(1868年)～明治21年(1888年)	明治22年(1889年)～明治35年(1902年)	以降、省略
<p>■港の風景</p> <p>直線状の2本の突堤が整備され、東側が東波止場、西側が西波止場と呼ばれていた。背後には運上所が設置され、貿易や外交が始まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安政6年(1859年) ジャーティン・マソン商会、テント商会などが進出 ・万延元年(1860年) 慰留地の整備が進む ・文久2年(1862年) 海岸通りが整備される ・慶応3年(1867年) 馬車道が整備される 	<p>■港の風景</p> <p>直線状の突堤が湾曲した形に延長され、水域を囲む“象の鼻”防波堤の原型がつくられた。この防波堤には街灯が設置され、散策に格好のプロムナードであったと記されている。(ファー・イースト誌 明治7年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治3年(1870年) 中央大通り(現在の日本大通り)が整備される。 ・明治9年(1876年) 彼我公園(現在の横浜公園)が整備される。 	<p>■港の風景</p> <p>明治22年(1889年)からは横浜港修築第1期工事が着工され、象の鼻防波堤の背後には、鉄棧橋(大さん橋の前身)が整備され、大型船が直接接岸できるようになる。</p> <p>その基部には赤煉瓦造の税関監視部の建物などが建設され、一帯は輸出入貨物を取扱う税関施設として利用されたことから、活気溢れる港となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治22年(1889年) 市町村制施行に伴い、横浜市となった 	

横浜開港場整備期	文明開化期	港湾整備期	...
安政6年(1859年)～慶応3年(1867年)	明治元年(1868年)～明治21年(1888年)	明治22年(1889年)～明治35年(1902年)	以降、省略
<p>■主な人物や船の往来</p> <ul style="list-style-type: none"> 安政6年(1859年) 宣教師J.C.ヘボンが来日 文久元年(1861年) 幕府の遣欧使節(福沢諭吉)などが出発 文久元年(1861年) 伊藤博文が英国留学に出発 慶応3年(1867年) 徳川昭武がパリ万博参加のため出発 	<p>■主な人物や船の往来</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治4年(1871年) 岩倉使節団が出発 明治7年(1874年) 教育家 新島襄がアメリカから帰国 明治9年(1876年) 明治天皇が東北巡行から明治丸で帰着 明治17年(1884年) 森鷗外がドイツ留学に出発 	<p>■主な人物や船の往来</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治23年(1890年) 作家ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が来日 明治28年(1895年) 鉄棧橋の第一船として英船「レガール」号が入港 明治29年(1896年) 欧州定期航路の第一船として土佐丸が出航 明治33年(1900年) 夏目漱石がドイツ郵船「ロセン」号で英国留学に出発 	



↑ 【引用元】 全て、横浜港“象の鼻”パークの掲示板上より



←開港当時の「横濱海岸之図」 (横浜開港資料館 所蔵)